

# 倶楽部総会議事録 および 一橋並びに津田塾大学卒業お祝い会報告

一橋陸上競技倶楽部 会長 西康宏

2026年3月17日(火)18:30～ 於 如水会館2階 オリオンルーム

日頃より倶楽部運営へのご協力および現役陸上部員の活動へのご支援を賜り厚く御礼申し上げます。  
2026年3月17日(火)に如水会館にて開催致しました掲題につきまして、以下の通りご報告申し上げます。  
(議事録および報告担当 理事 若菜・記)

## 【総会 議事録】

### 1. 開会宣言 ～ 2. 出席会員数の確認および開催定足数充足宣言

西会長が議長就任。 会員数565名／出席＋委任状133名で、総会成立。

### 3. 倶楽部活動報告

- ・令和7年度も現役と連携して手厚い支援・サポートを継続実施した。
- ・年会費収入の予算未達や支出増により今年度は379千円の赤字会計になった。大幅な収入増は見込みにくいた、心苦しいが、一部支出を削減して令和8年度は収支均衡に持っていきたい。

### 4. 監査報告(伊丹監事)

2026年1月24日に決算内容を精査の結果、適正に処理されていることを確認。

### 5. 議案(詳細については事前に郵送した資料御参照の事) ～ 6. 採決

#### ①令和7年度(2025)事業報告及び収支計算と令和8年度(2026)事業計画及び収支計算

(会計担当富田理事より説明)

- ・2025年度予算は赤字見込みだったが、決算も残念ながら379千円の赤字となった。収入は2024年度の対校戦全勝に対するカンパ収入がなくなった影響もあり年会費収入が予算に対して約25万届かなかった。支出は予備費以外ほぼ予算を使い切った。ユニフォーム補助は新入部員10名見込みに対して21名分の補助となり赤字となった。
- ・2026年度予算は収支をバランスした予算設定とした。  
収入については、年会費は2025年度の実績を鑑みて380万円とした。  
支出については、収入が厳しいため総額としては今年度より減額とした。対校戦等は例年通りだが、現役から支援内容の見直し提案があり、合宿費を大きく削減し、その分を外部コーチ委嘱にシフトした。外部コーチ委嘱の成果は着実に出てきており、更にステップアップするために今年度の倍の金額とした。部誌の電子化による費用削減、都留杯・水上杯のカップ費用削減等も盛り込んだ。
- ・資産については、一般会計は2025年末で約136万円、特別会計は約2,277万円の残高となっている。2025年度は特別会計からの支出はなかったが、2026年度はグラウンド環境維持費として100

万円を特別会計から支出予定。

- ・報告事項として、基金への寄付について、2025 年度の後援会基金は6名から計 51 万円の寄付を頂き、タータン洗浄や備品購入等で約 77 万円支出した。2025 年末で残高約 346 万円。大学基金は、2025 年度はグラウンド環境維持費で 715 千円を支出。次年度は国立グラウンドでの対校戦開催のため劣化している高跳び用マット 250 万円を購入予定。

## ②理事及び監事選任の件

現行理事16名及び監事1名全員重任。

## ③一橋陸上競技倶楽部会則改訂の件(第 12 条の理事定数を16名から 20 名に改訂)

昨年度から公募制をとっており、やりたい人になってもらいたい。若手にも手を挙げてもらいたい。

\* →→→→ いずれの議案も賛成多数、可決。

## 7. 理事の公募について

議案の承認が得られたのでこれから公募を実施する。選任は来年の総会になるが、陪席という形で理事会にも参加してもらえればと思っている。ぜひ手を挙げてほしい。

### 【一橋並びに津田塾大学卒業お祝い会の御報告】

#### 1. 激励の言葉(加納隆部長)

(要旨) いま社会は世界各地で戦争が起こり終息しない状況で、地政学的な危機とは無関係でいられない不確実性が高いこの状況を乗り切っていくために必要なことは、①まず健康。バイタリティの源泉であり、卒業しても健康維持を心がけて運動を続けてほしい。②心の面では「BE YOURSELF」。自分を見つけて自分に素直に生きてほしい。③最後に、心身ともに健全であっても人生には越えられないような困難、パンデミック、自然災害、戦争といった不可抗力に直面することがあると思う。そういう時こそ一橋大学、津田塾大学に立ち寄って同期、先輩、後輩、恩師などと語らうことで新しい視点を提供してくれることで次のステップへの大きな契機になるはず。この倶楽部をそのような形でぜひ活用してほしい。

#### 2. 歓迎の言葉(西康宏会長)

(要旨) 昨年までは一橋大学の4年生の卒業をお祝いする会として開催していたが、今年は理事会でも議論し、津田塾大学陸上競技倶楽部の長崎会長とも相談し、同倶楽部から費用を拠出頂き、両校の4年生をお祝いする会として装いを変えて実施することになった。来年以降もこの形で開催していきたい。数年前から現役の皆さんが希望する支援をしていくことに方針転換をして、しばらくは予算未消化が続いていたが、皆さんが幹部になった頃から順調に支出を増やしてもらい、今年赤字決算だったがこれは悪いことではなく皆さんのリーダーシップのお陰だとうれしく思っている。社会人として新しい船出となるが、荒波もあると思うが、皆さんが力を発揮できる職場が待っていると思うのでぜひ頑張ってもらいたい。

い。最後に、「感謝」という言葉をもって卒業してほしい。指導してくれた先輩、切磋琢磨した同期、応援してくれた後輩、陰ながら支援してきた OBOG、加納先生はじめ指導者の皆さん、そういう方々への感謝の念を忘れずにこれから社会人として大きく羽ばたいてもらいたい。

### 3. 2025 年度表彰

<都留杯> 内山秀眞 走高跳1m65

<準都留杯> 内山秀眞 走幅跳 5m42、円盤投 17m52

白石雄大 4×100mR 40 秒 80、4×400mR 3 分 15 秒 40、

田崎香穂 100mH 14 秒 60、100m 12 秒 69、200m 26 秒 40、砲丸投9m78

<水上杯> 白石雄大

4. 新会員自己紹介 一橋大学 出席者 13 名(卒業生 10 名・留年 3 名)／全 16 名

津田塾大学 出席者 4 名／全 6 名

### 5. 新会員代表挨拶

一橋大学 白石雄大(元主将)

(要旨)現役の時には OBOG の皆様からの多大なる支援のもとで自分たちの活動が成り立っていることを実感したので、自分たちの世代は全員が会費を納めるようにしていきたい。色々な世代の OBOG が陸上部の活動に携わって頂けることはとても良いことだと思っているので、私も OB としてその役割の一端を担っていきたいと思う。

津田塾大学 丹野夏鈴(元主将)

(要旨)このような会に西会長を始め OBOG の皆様のご厚意により津田塾大学の部員も参加させて頂き本当にありがとうございます。一橋と津田塾の合同チームは人数、実力、環境の差によって現役も OBOG もやりづらさを感じる部分があると思う。私も幹部の時には思うところがあったが、出会えた仲間たちや経験をこれからも大事にしていきたいと思っているので、今後も陸上をしたい学生が安心して競技できる環境であるように私も OG として支援していきたい。

### 7. 競技部現況報告

一橋大学 河上遼大(現主将)

(要旨)今年度のスローガンは「対校戦常昇」を掲げた。関東インカレなど上位大会に出場する選手を増やしていく意味の「上昇」と、少数対校戦で常に勝ち続けられるチームにしたい「常勝」の2つの意味を込めている。今年度はコーチング予算の改変や、去年は対校戦全勝できなかった悔しさも活かしながら、今年度は対校戦全勝を成し遂げたい。

津田塾大学(品田涼香 現主将)

(要旨)私たちの代は2人しかいないためマネージャーの私が主将を務める。津田塾大学陸上部は、今現役生が 11 名うち選手が 3 名という少人数の状況で、幹部世代が私しかいないため主将、内

務、会計を兼務でやっていく。今年の一橋・津田塾の女子の目標として、全員が専門種目でPBを出すこと、女子全体で50個のPBを出すことを掲げている。一人一人が競技に向き合い成長することで「常昇」を目指していきたい。

## 8. 歓迎の挨拶

一橋大学OB 田島 良人

(要旨) ご卒業おめでとうございます。新社会人として頑張ってください。少し私の話をすると、私の父の田島直人(1936年ベルリンオリンピック三段跳金メダル、走幅跳銅メダル)が昭和43~44年頃に一橋陸上部のコーチをしていた縁があって一橋の陸上部に入った。大学2年のインカレでは活躍できたが、7月の三商大戦で利き足を肉離れしてしまい、それからは鳴かず飛ばずの成績だった。そんな悔しさもあり卒業後はグラウンドから足が遠のいていたが、年月が経って倶楽部の理事をすることになり、理事会で現役をいかに強くするかというテーマになった時に私はグラウンドを全天候型トラックにすべきだと提案した。今の現役諸君は大変強くなったと思うが、それには全天候型トラックが貢献していると思っている。この恵まれた環境を今後も活かして記録を伸ばして欲しい。

津田塾大学陸上競技倶楽部 長崎美香会長

(要旨)まずこの会を一橋津田塾合同で実施して頂くことにご尽力頂いた西会長、森田監督はじめ陸上競技倶楽部の皆様に感謝申し上げます。卒業生を送るタイミングでいつも思い出すのは、自分が卒業の時に監督だった西さんの言葉で、「君たちの陸上部で過ごした4年間は社会に出たら役に立たない。ただ陸上部は、家庭と仕事の次の3本目の柱になる。仕事や家庭がうまくいなくても陸上部がある、倶楽部が支えになる、それを後輩たちに紡いで欲しい」というお話を頂いた。その通りで私自身も陸上部の先輩、同期、後輩たちが第三の柱として支えてくれた。ただ西さんの言っていたことは違うのではないかと思うことがある(笑)。同年代の人たちが年齢による衰えを口にするようになったが私は全然大丈夫で、それはなぜかと考えると陸上部だったからだと思っている。若いうちに身体もメンタルもどれだけ鍛えていたかということが影響してくるタイミングがあるので、皆さんも陸上部で過ごした4年間で培った体力、気力を活かして社会人になっても頑張ってください。

以上